News　Release

２０２２年６月１６日
智頭急行株式会社

智頭急行株式会社第３６回定時株主総会の内容について

智頭急行株式会社第36回定時株主総会は、2022年6月16日にホテルニューオータニ鳥取(鳥取県鳥取市今町2丁目153)において開催いたしました。

なお、本総会は、法令に基づく所定の期間をもって招集し、かつ、定足数を満たしていましたので、適法に成立いたしました。

その主な内容を次のとおりお知らせいたします。

記

第 36 回定時株主総会

・第 36 期事業報告について
　事業報告書の内容を報告しました。

・第 36 期貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表並びに損失処理計算書案の承認について
　原案どおり承認されました。

・取締役の辞任に伴う取締役の選任について
　下記の２名が選任されました。
[取締役]
　服部　洋平（新任）（兵庫県副知事）
　八木　俊英（新任）（株式会社鳥取銀行常務執行役員）

・監査役の辞任に伴う監査役の選任について
　下記の１名が選任されました。
[監査役]
　広田　一恭（新任）（倉吉市長）

・2021 年度智頭線の輸送人員について
　特急列車及び普通列車の輸送人員を報告しました。

参考：取締役

	氏　名	備　考		氏　名	備　考
	平井　伸治	(鳥取県知事)		庵逧　典章	(佐用町長)
新任	服部　洋平	(兵庫県副知事)		梅田　修作	(上郡町長)
	小谷　　敦	(岡山県副知事)		石丸　文男	(㈱山陰合同銀行代表取締役会長)
	深澤　義彦	(鳥取市長)	新任	八木　俊英	(㈱鳥取銀行常務執行役員)
	吉田　英人	(八頭町長)		丸山　明則	(神姫バス㈱代表取締役専務取締役)
	金兒　英夫	(智頭町長)		城平　守朗	智頭急行㈱
	青木　秀樹	(西粟倉村長)		稲田　雅也	智頭急行㈱
	萩原　誠司	(美作市長)			

参考：監査役

	氏　名	備　考
新任	広田　一恭	(倉吉市長)
	三宅　智章	(姫路信用金庫専務理事)

（参考）

第36期（2021年度）の決算状況等について

1　決算の状況

（1）営業収益　1,799,870,362円

営業収益は、1,800百万円(前期比94.3%、前々期比65.1%)と新型コロナウイルス感染症の影響を受けた期間が限定的だった前々期より963百万円の大幅な減となりました。

ア．旅客運輸収入　575,568,956円

旅客運輸収入は、576百万円(前期比113.4%、前々期比44.7%)と新型コロナの影響等により輸送人員が大きく減少し、前々期より711百万円の大幅な減となりました。

イ．運輸雑収　1,224,301,406円

運輸雑収は、1,224百万円(前期比87.4%、前々期比82.9%)とスーパーはくと６号及び９号が５月10日から運休になったこと等により受取車両使用料が減少し、前々期より252百万円の減となりました。

（2）営業費用　2,221,299,665円

営業費用は、2,221百万円(前期比96.5%、前々期比87.2%)と前々期と比較して高架橋などの土木構造物修繕の減少等に伴う修繕費の減少、スーパーはくと６号及び９号の運休等による経費の減少、新規投資を抑制したことに伴う減価償却費の減少等により326百万円の減となりました。

（3）営業損益　△421,429,303円、経常損益　△282,838,230円

営業損益は、△421百万円と前々期より638百万円の減となり、経常損益は、△283百万円と法人税の欠損金繰戻還付金、外貨定期預金の為替差益等による営業外収益の増加等により赤字幅が縮小したものの前々期より501百万円の減となり、大幅な減収減益となりました。

前年度の経常損益と比較すると減収となったものの73百万の赤字幅縮小となりました。

第36期の経常損益の赤字額は、開業以来27年間で２番目となりました。

なお、国及び自治体からの補助金等を計上する特別損益を加味した実質的な赤字である税引前当期純損益は△95百万円となりました。

（単位：円、％）

区分		第36期(2021年度)	(前期比) (前々期比)	第35期(2020年度) 差額	第34期(2019年度) 差額
収入	営業収益	1,799,870,362	(94.3) (65.1)	△107,819,745	△963,150,903
	旅客運輸収入	575,568,956	(113.4) (44.7)	68,051,392	△710,727,740
	運輸雑収	1,224,301,406	(87.4) (82.9)	△175,871,137	△252,423,163
費用	営業費用	2,221,299,665	(96.5) (87.2)	△80,759,022	△325,583,782
	人件費	497,791,626	(101.2) (101.8)	6,144,730	8,640,723
	修繕費	711,293,396	(85.3) (78.5)	△122,265,261	△194,783,777
	動力費	268,789,355	(137.1) (95.0)	72,678,109	△14,089,156
	経費	357,563,029	(105.3) (95.2)	17,965,203	△17,926,305
	諸税	59,259,575	(92.7) (81.9)	△4,655,261	△13,135,994
	減価償却費	326,602,684	(86.6) (77.6)	△50,626,542	△94,289,278
営業損益		△421,429,303	(－) (－)	△27,060,723	△637,567,121
営業外収益		142,408,373	(258.5) (979.8)	87,317,297	127,874,364
営業外費用		3,817,300	(22.7) (31.7)	△13,030,057	△8,208,828
経常損益		△282,838,230	(－) (－)	73,286,631	△501,483,929
特別利益		254,215,067	(270.8) (1,372.4)	160,342,667	235,692,253
特別損失		66,394,716	(373.7) (279.9)	48,626,372	42,670,762
税引前当期純損益		△95,017,879	(－) (－)	185,002,926	△308,462,438
法人税等		1,136,000	(100.0) (1.7)	0	△64,398,400
当期純損益		△96,153,879	(－) (－)	185,002,926	△244,064,038
営業係数		123.4			
設備投資		178,399,308			

2　２０２１年度智頭線の輸送人員について

1．全体　564,789 人（前年度比　：上期 107.4%、下期 111.2%、通期 109.7%
前々年度比：上期　37.1%、下期 65.2%、通期　50.3%）

全体の輸送人員は、564,789 人（前年度比 109.7%、前々年度比 50.3%）と新型コロナウイルス感染症の影響を受けた期間が限定的だった前々年度を 558,166 人下回りました。

≪列車別輸送人員≫　（単位：人、%）

区分		第 1 四半期	第 2 四半期	第 3 四半期	第 4 四半期	2021 年度 累計
スーパーはくと	人　員	36,973	47,654	106,091	73,517	264,235
	乗車率	12.5	17.9	38.3	25.6	23.4
	前年度比	149.7	89.0	125.9	130.8	120.8
	前々年度比	24.9	28.9	66.8	58.1	44.1
スーパーいなば	人　員	19,207	22,329	45,140	27,957	114,633
	乗車率	15.6	19.2	37.7	22.7	23.8
	前年度比	155.9	95.4	140.1	113.1	123.7
	前々年度比	30.0	32.5	67.8	55.5	45.9
特急列車合　計	人　員	56,180	69,983	151,231	101,474	378,868
	乗車率	13.4	18.3	38.1	24.7	23.5
	前年度比	151.8	91.0	129.9	125.4	121.7
	前々年度比	26.4	29.9	67.1	57.4	44.6
普通列車	人　員	47,002	47,652	44,712	46,555	185,921
	前年度比	142.3	81.4	68.5	99.4	91.3
	前々年度比	62.7	64.2	60.6	90.9	67.8
総　計	人　員	103,182	117,635	195,943	148,029	564,789
	前年度比	147.3	86.8	107.8	115.9	109.7
	前々年度比	35.9	38.2	65.5	64.9	50.3

2．特急列車　378,868 人（前年度比　：上期 110.7%、下期 128.0%、通期 121.7%
前々年度比：上期　28.3%、下期 62.8%、通期　44.6%）

特急列車の輸送人員は、378,868 人（前年度比 121.7%、前々年度比 44.6%）と、新型コロナの影響を受けた期間が限定的だった前々年度を 469,883 人下回りました。

運行期間が 4 カ月足らずだった 1994 年度を除くと、前年度を 67,543 人上回ったものの開業以来 27 年間で 2 番目に少ない輸送人員となりました。

上期の輸送人員は、126,163 人（前年度比 110.7%、前々年度比 28.3%）と前々年度を 320,212 人下回りました。これは、デルタ株等による新型コロナの感染拡大に伴い、4 月 5 日に兵庫、大阪等の 3 府県においてまん延防止等重点措置が実施され、4 月 25 日に兵庫、大阪、京都、東京の 4 都府県において緊急事態措置が実施される等、緊急事態措置又はまん延防止措置の実施地域が順次拡大や縮小を繰り返しながら 9 月 30 日まで継続されたこと等により、前々年度上期を大きく下回りました。

下期の輸送人員は、252,705 人（前年度比 128.0%、前々年度比 62.8%）と前々年度を 149,671 人下回りました。これは、10 月 1 日から 3 か月間に渡って新規感染者数が少なく緊急事態措置及びまん延防止等重点措置の実施地域が無い状態が続き、中止や延期になっていたイベントの開催、自粛されていた旅行、外出等が徐々に増加し、ご利用の回復傾向が見られたものの、オミクロン株等による新型コロナの感染拡大に伴い、1 月 9 日に広島等の 3 県においてまん延防止等重点措置が実施され、その後実施地域が順次拡大や縮小を繰り返しながら 3 月 21 日まで継続されたこと、更には、その実施期間外・地域外における感染の高止まり等を踏まえた都道府県知事からの県境を跨ぐ移動の自粛要請等を受けて、旅行、外出等の出控えが続いたこと等の影響により、2020 年 2 月から 3 月にかけて新型コロナの影響を受けていた前々年度下期を大きく下回りました。

（1）スーパーはくと（前年度比　：上期 108.2%、下期 127.9%、通期 120.8%
前々年度比：上期 27.0%、下期 62.9%、通期 44.1%）

新型コロナの影響が大きかったこと等により、年度累計で 264,235 人と前々年度を 334,755 人下回り、大きく落ち込みました。

（2）スーパーいなば（前年度比　：上期 116.2%、下期 128.4%、通期 123.7%
前々年度比：上期 31.3%、下期 62.5%、通期 45.9%）

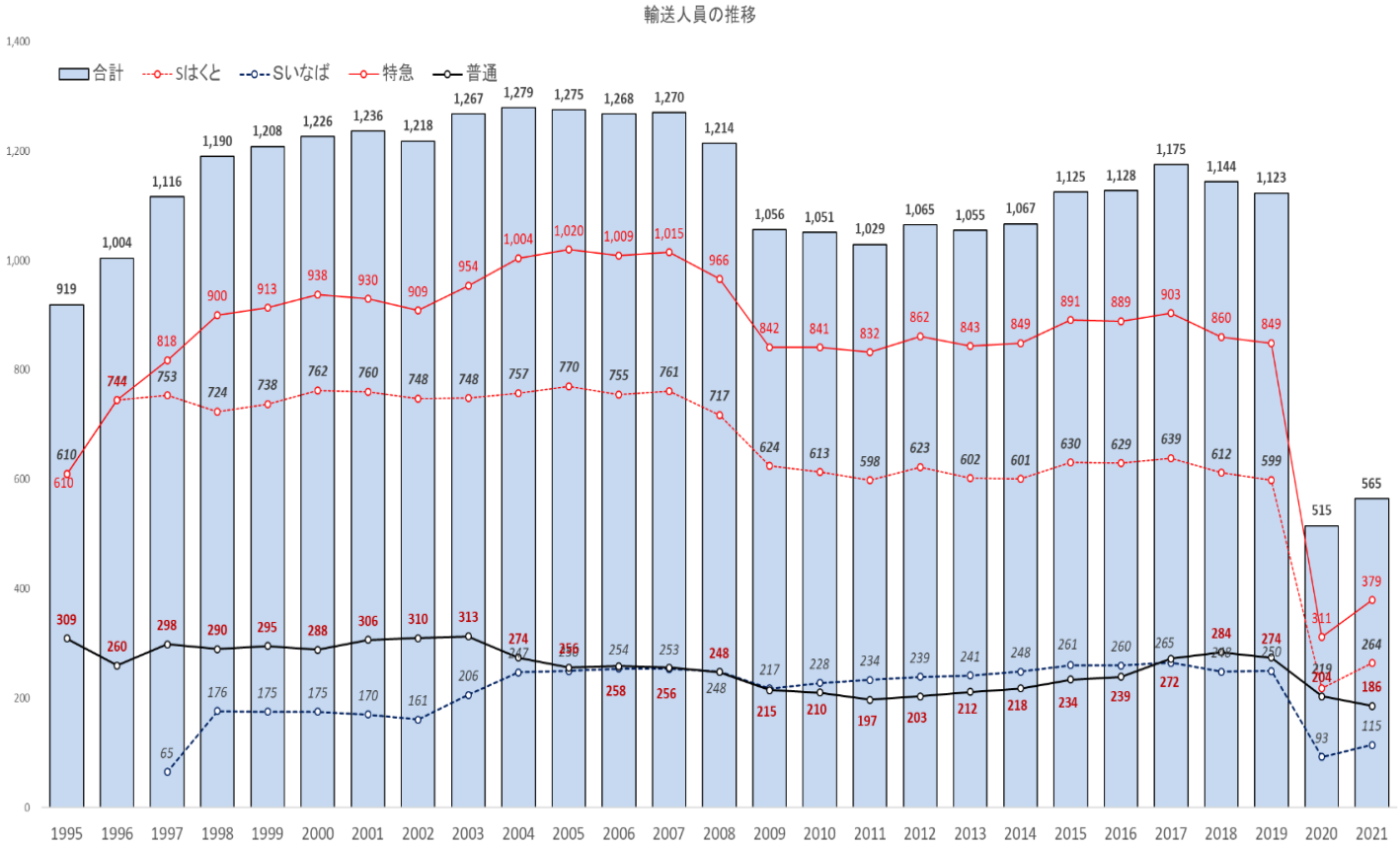
新型コロナの影響が大きかったこと等により、年度累計で 114,633 人と前々年度を 135,128 人下回り、大きく落ち込みました。

3．普通列車　185,921 人（前年度比　：上期 103.4%、下期 81.4%、通期 91.3%
前々年度比：上期 63.4%、下期 73.0%、通期 67.8%）

普通列車の輸送人員は、185,921 人（前年度比 91.3%、前々年度比 67.8%）と前々年度を 88,283 人下回りました。これは、佐用高校の通学利用が減少していることに加えて、新型コロナの感染拡大に伴う旅行、外出の出控え等の影響による減少等により、前々年度を大きく下回りました。なお、第 4 四半期については、前々年度の 2020 年 2 月から 3 月にかけて新型コロナの影響を受けていたこと等により、落ち込みの幅が小さくなっています。

定期、定期外については、定期が 142,140 人(前年度比 104.9%、前々年度比 87.1%)と前々年度を 21,000 人下回り、定期外は 43,781 人(前年度比 64.3%、前々年度比 39.4%)と前々年度を 67,283 人下回りました。

運行期間が 4 ヵ月足らずだった 1994 年度を除くと、開業以来 27 年間で最も少ない輸送人員となりました。



お　問　い　合　せ
総務部総務企画課
電話　0858-75-6600